

出版物海賊版サイト 国内向け、海外向け それぞれの現状と対策の問題点

一般社団法人ABJ 広報部会長
株式会社集英社 編集総務部
伊東 敦

海賊版サイト、日本国内からのアクセス 2023年12月 上位10サイト月間アクセス数(一社ABJ調べ)

順位	サイト名	URL	2023年11月 (単位=万)	2023年12月 (単位=万)	11月→12月 の増減率	態様	侵害物
1			2,007	2,268	113.0%	ダウンロード／リーチサイト	出版物、映画
2			2,233	2,149	96.2%	オンライン／(ベトナム系 濃厚)	漫画
3			2,014	2,043	101.4%	オンライン／(ベトナム系 濃厚)	漫画
4			1,909	2,023	106.0%	ダウンロード／トレント	出版物全般、アニメなど様々
5			928	1,128	121.6%	ダウンロード／リーチサイト	出版物全般
6			719	749	104.2%	オンライン／ベトナム系	漫画
7			497	569	114.5%	オンライン／(ベトナム系 濃厚)	漫画
8			471	519	110.2%	オンライン／(ベトナム系 濃厚)	漫画
9			179	493	275.4%	オンライン／(ベトナム系 濃厚)	漫画
10			368	418	113.6%	ダウンロード／リーチサイト	出版物全般
上位10サイト 合計			11,325	12,359	109.1%	9位サイトは前月比275%と大幅に増加している。当月の上位10サイトの合計アクセス数は約1億2360万となり、前月の約1億1930万から4%ほど増加した。	
内 ベトナム系サイト ※「ベトナム系濃厚」も含む 合計			6,113	6,522	106.7%	当月のトップ10内のベトナム系サイトのアクセス数は概ね増加したものの、トップ10内のベトナム系サイト数が前月の7サイトから6サイトに減少した。これにより当月は約6500万となり、前月の約7000万から8%ほど減少した。	

一般社団法人ABJ調べ 【出版物海賊版サイト】 2023年(年間)にタダ読みされた金額

2020年年間＝約2100億円(2021年2月時点での推計)

2021年年間＝約1兆19億円(2022年2月時点での推計)

2022年年間＝約5069億円(2023年2月時点での推計)

2023年年間＝約3818億円(2024年1月末時点での推計)

さまざまな対策を積み上げて、2022年→2023年で、約25%減を実現。
ただし2020年と比較して約1.8倍という残念な状況は継続中。

※あくまで「海賊版サイトでタダ読みされた金額」であり、正規の売上げの減少額ではない

※コミックス1冊相当が海賊版で閲覧されたら、500円がタダ読みされた、と計算

※上位10サイトのうち計算可能なオンライン型サイトで推計。ダウンロード型や11位以下のサイトは含まれていない

出版物海賊版サイト数の概況

2024年1月1日現在

ABJが把握している出版物海賊版サイト数 = **1176**サイト (半年前からやや増加)

- ① そのうち日本人向け = **277**サイト (半年前は240)
- ② 英語翻訳の海賊版サイト = **446**サイト (半年前は400)
- ③ 残りは、各国語に翻訳されたサイト = **453**サイト (半年前は460)

言語は、中国語、ベトナム語、ハングル、タイ語、インドネシア語、スペイン語、フランス語、トルコ語、ポルトガル語、ロシア語、イタリア語など様々

※日本語、英語サイトが少し増加

※英語翻訳が多数。各国語の中ではベトナム語が160と非常に多い

ベトナム語翻訳の海賊版サイトより→



(一社)ABJが把握している
英語翻訳 大手海賊版5サイト

サイト名	URL	月間アクセス数 (2023.11/全世界)	備考
		1億4640万	同一グループ (ベトナム系)
		7673万	
		3995万	
		3731万	
		2011万	
合計		3億2050万	5サイトで日本人向け 上位10サイトの2.5倍



上記5サイトへのアクセス上位10カ国 (単位=%)

アメリカ	インド	フィリピン	インドネシア	カナダ	イギリス	メキシコ	フランス	ドイツ	マレーシア
24.6%	9.4	7.6	4.7	3.6	3.5	3.3	3.3	3.1	2.9

英語翻訳サイトの総数=446

(一社)ABJが把握している

ベトナム語翻訳 大手海賊版3サイト

サイト名	URL	月間アクセス数 (2023.11/全世界)	備考
		1億6760万	約97%がベトナム 国内からのアクセス
		3229万	
		1311万	
合計		2億1300万	3サイトで日本の倍近く

ベトナム語翻訳のサイト数	160	人口1億
(参考)タイ語	18	人口7千万
(参考)インドネシア語	27	人口2億7千万
(参考)中国語	64	人口14億



出版界が実施している対策一覧

削除要請	<p>個社 (侵害対策ベンダーに発注、 関連団体と協力しながら)</p>
ある個社のケース【月間200,000件】(月によって変動あり)	
サイト・サービス→70,000件	
検索エンジン→110,000件	
SNS・動画投稿サイト→20,000件	
国内での刑事摘発 (著作権、商標権)	<p>出版5社海賊版対策会議 (関連団体、省庁と協力しながら)</p>
偽グッズ、ネタバレ・早バレサイトなど	
海外在住の運営者の情報開示請求、摘発	
漫画BANK行政処罰(中国)、13DL閉鎖	
ベトナム系サイト閉鎖	
Googleとの効率的な検索結果表示抑止枠組	<p>出版3社連合</p>
クラウドフレア訴訟	
漫画村民事訴訟	
STOP! 海賊版キャンペーン	<p>(一社)ABJ (出版社、電子書店、IT・通信事業者、省庁、 関連団体など協力しながら)</p>
海賊版サイトリストの作成と利活用	
セキリュティソフト会社に提供(アクセス警告)	
ネット広告関連企業・団体に提供(広告停止)	
通信事業者に提供(スマホでの青少年フィルタリング)	

日本人向けサイトのアクセス数が減少した理由

2022年3月【4億→2億への減少】

理由は明確→**超巨大3サイトの閉鎖**

2023年1月→12月【2億→1億2千への減少】

正確な理由は不明／↓2023年、新たに実施したことふたつ

Google検索結果非表示措置の迅速な運用 (正確には2022年秋から)

これまでにない拡散をした「STOP! 海賊版キャンペーン」

「Google検索結果非表示措置の迅速な運用」に関して

- 👉 2022年秋から本格運用開始【出版5社対策チームとGoogleで策定】
- 👉 裁判所が関与する枠組
- 👉 これまで複数のサイトをGoogle検索結果から非表示に
- 👉 海外からのアクセスに対応できれば、さらに大きな武器に
- 👉 この枠組は実験的な措置であり、Googleと出版社5社対策チーム間で、海賊版対策に向けて継続的に協議・検証を行っていくことを確認している

【運営者、使われているサービスがすべて海外である昨今】 今後注力すべき対策、問題点に関して

- ☞ 海外での法的執行の強化 ← 茫漠としていますが…
- ☞ たとえば、ベトナムにおいて、官民連携で取り組んでいるが ← 容易ではない
- ☞ 国が変われば、また一からやり直し ← これが大事！
- ☞ たとえば、韓国、中国との連携 ← 効果ありかも？ (別紙1)
- ☞ 海外に向けての啓発活動 ← 複数の施策立案中
- ☞ アウトサイダー的な広告 ← どう抑止するか (別紙2)
- ☞ CDN対策 ← 訴訟 + 有効な枠組の再構築
- ☞ 世界のインターネットコミュニティとの連携強化 ← IGF参加のよ
うな取組の継続

韓国、中国との連携

- 👉 外国語翻訳の海賊版サイトには、日本の作品だけでなく、韓国、中国の作品も目立ち始めた
- 👉 特に韓国は、そういった海賊版への対応に積極的
- 👉 運営者が在住する国での摘発に関して、協調して当該国にプレッシャーをかけることができる
- 👉 ハリウッド映画を有するアメリカは、MPA中心に海賊版対策に積極的だが、対象とするサイトが違うケースが多いので、直接の連携はとりづらいかも？
- 👉 文化庁さんやCODAさんが韓国、中国とこれまでも連携しているので、さらなる強化は、実効性、速度が抜群？

海賊版サイトには、アウトサイダー的な広告ばかり

👉 日本国内での広告対策は進展した → 海外の確信犯的な広告配信事業者の跋扈

